

1. キャンパス・インテリジェント化実施計画
2. 法人化に伴う学内組織の変更
3. キャンパス・インテリジェント化計画の見直し
4. 学術コミュニケーションに関する学内広報
5. 実装実験の提案

1. 金沢大学キャンパス・インテリジェント実施計画

○平成12年8月 「キャンパス・インテリジェント化構想検討報告書」

キャンパス・インテリジェント化構想検討委員会(委員長・理学部長)

○平成12年12月「キャンパス・インテリジェント化実施計画に関する具体的提案」

学術情報委員会キャンパス・インテリジェント化推進コアグループ

(委員長・副学長＝前館長) → CIT化計画検討ワーキンググループ

○提案の骨子

・情報研究推進、情報処理教育の実施、学術情報の蓄積・利用と発信

・学務情報化、事務情報化

○学術情報の発信

・「学協会あるいは出版社等が発行する学術雑誌が盛んになりつつある」

・「より速く成果を世界に情報発信する活動が盛んになりつつある」「大学全体あるいは部局単位の組織的な取組が必要」

○情報発信のための具体的方策

- ・研究成果の公表・組織的取組み、研究者データベースの充実
- ・地域への情報発信と研究交流、世界への情報発信、
- ・情報発信機器整備

→「本学からの研究情報、成果発信体制が確立でき、発信情報の内容充実とによって、社会への研究活動の説明責任を果たせる」

○附属図書館の対応

「研究業績とあわせてインターネットなどによる積極的な公開、情報発信を計画的に実施すべき」と提言する

2. 法人化に伴う学内組織の変更

○情報企画会議 大学の基幹会議 情報戦略+社会貢献

○情報部 附属図書館、資料館、総合メディア基盤センター、
大学開放センター、情報処理課、社会貢献室を統合

○情報担当理事 附属図書館長兼任

○附属図書館 情報部図書館サービス課・情報企画課（2課体制）

3. キャンパス・インテリジェント化計画の見直し

○情報企画会議の中で、見直しのWGを設置

メンバーは、企画会議所属の教員、図書館サービス課長、情報基盤整備課長
事務として、情報企画課補佐、情報基盤整備課補佐

○附属図書館提案分「学術情報蓄積・発信システム」(含意としてはリポジトリ)

○総合メディア基盤センター「大学情報統括システム」(標準規格とインターフェース)

→大学全体の情報をトータルに管理するためのデータベース規格と利用のための
インターフェースの構築 (現在は地球惑星関係の数値データベース構築中)

→図書館のリポジトリを統合データベースの文献データベース部分として提起
今後の協力関係の確認 (センター長、学術情報部門教員)

○キャンパス・インテリジェント化実施予算は継続的に措置することが役員会で決定 済み →年次的に情報インフラを整備

4. 学術コミュニケーションに関する広報

○電子ジャーナルパッケージの冊子体予算の共通経費化計画の提案

- ・キャンセルを止めるため（＝「金沢大学学術基盤整備計画」）
- ・全部局に説明 工学部説明会、理学部化学主催説明会、薬学部教授会
がん研究所教授会 文学部図書委員会などなど
- ・その際 CONSORTIUM SPARC SPARC/JAPAN OPEN ACCESS
OPEN ARCHIVE INITIATIVEなどの学術コミュニケーションの改善運
動の流れについても必ず触れる → 医学系教員はよく知っている

○「データベースフォーラム」平成16年9月 金沢大学データベース研究会主催

- ・図書館職員「学術雑誌の危機とSPARC JAPAN PROJECT」1コマ喋る
E-print Archive、Institutional Repository、OAI-PMH、
MetaData (Simple DC)などに触れる
- ・文献データベースは図書館(の世界)に10年あまりの蓄積があることに触れる

5. 実装実験の提案

- キャンパス・インテリジェント化計画 電子ジャーナル共通経費化からの流れ
- 12月末に情報企画課から情報部長に実装(=試行の位置づけ)を提案 了承
- 当面は、技術的要件の実証が目的
- 図書館サービス課2名 情報企画課3名でとりあえず始めることにする
- 総合メディア基盤センター長などにも話題は提供済み
- 富士通 Primergy Econel40 (redhatプリインストール済み)を購入(2月3日納入)
- インストールは、EPrins7-3-1、MySQLを予定
- NIIの紀要ポータルに採用されなかったコンテンツの発信の要望を掬い取る
- 3月一杯に実装及びハーベスティングを行いたい(予定だが、ちょっときついか?)
- 組織的な取組は来年度以降

- 課題
- ・技術的要件の確認、他システムとの比較、ベンダーシステムの調査
 - ・海外の実装の学内的な条件の調査(平成17年度奨励研究に応募)
 - ・学内教員組織への周知・広報=コンテンツ収集条件の調査
 - ・著作権の問題 知財との競合・関連

→ 一般に大学は学術情報の取り込み(有償提供)に動きつつある印象